

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2372500633
法人名	社会福祉法人サン・ビジョン
事業所名	グループホーム グレイスフル八田
訪問調査日	平成20年2月18日
評価確定日	平成20年3月29日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	2372500633
法人名	社会福祉法人サン・ビジョン
事業所名	グループホーム グレイスフル八田
所在地	春日井市八田町2-27-10 (電話) 0568-85-5331

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成20年2月18日	評価確定日	平成20年3月29日

【情報提供票より】(平成20年1月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 11年4月5日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,200 円	その他の経費(月額)	19,500 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年1月20日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.2歳	最低	82歳	最高	91歳
協力医療機関名	春日井市民病院・勝川医院・あさひが丘ホスピタル				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは静かな住宅地に立地する。開設当初より地域行事に参加するなど交流に心がけ、犬の散歩時の立ち寄り、季節に応じた野菜や花の届け物があり、日常的に双方で支え合っている。小学生の通学路にあたるので朝「見守り」をしたり「子ども110番」の申請をし受理された。朗読、オカリナ、チェロ、手品、うた、紙芝居など多くのボランティアや友人として同年代の方の会話訪問がある。折に触れ「つぶやき」や「交換ノート」で現在の気持ちの汲み取りに努め「さりげなくかげから」支えながら「幸せだなあ。楽しいなあ。」と感じてもらえるよう支援している。毎月、地域包括支援センターへ全員で考えた俳句を応募したり、職員の子どもの訪問もある。日常生活や年間行事を盛り込んだホームのDVDを制作し家族にも見てもらった。今後も段階に応じたきめ細やかな対応、家族へのメンタルケア、地域での「認知症」の理解を広めていきたいと考えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果をより良いサービス提供に活かしている。特に介護計画は問題解決の視点だけではなく、好きなこと、伸ばしたいことなどを盛り込み、個別ケアに沿ったプランの作成に努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者はセルフチェック表の延長線上に評価を捉え、職員に意義を説明し全員で自己評価に取り組んだ。項目数が多く、時間がかかったが、管理者は職員の捉え方を知ることができ、職員は日常業務のあるべき姿が分かり勉強になった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、2カ月毎に施設長、ハウスマネージャー、職員、家族、市役所担当、地域包括支援センターが参加し開催している。町内会長、民生委員にも声かけしているが今のところ参加はない。ホームの運営状況、入居者の様子の説明、勉強会を行い、意見交換の場、家族交流の場として役立っている。市の職員の参加で制度面などの質疑応答もされている。議事録は欠席の職員にも提示し情報を共有している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	昨年12月に第1回家族会(忘年会)を開催した。バイキング形式の食事やミニ掛け軸作り、ゲームやホームよりの話しをした。家族は困ったこと、悩んでいることなどの交流の場となり家族間でとても盛り上がった。今後は季節毎に開催しホーム側も家族とゆっくり話しをしたいと考えている。意見箱を設置しているが、今までに苦情はない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、年に数回毎月の「八田だより」を作り変えて回覧している。日々ゴミ捨てや散歩で交流を図り、敬老会や草むしりなどに参加している。中学生の体験学習や大学生、各種ボランティアの受け入れもしている。近所の方が犬を連れホームへ立ち寄ったり、また、季節の行事に野菜や花を届けて下さる方もある。地域包括支援センターとの協力で3月には介護予防教室の講師として認知症の話しをすることになっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p style="text-align: center;">. 理念に基づく運営</p> <p style="text-align: center;">1. 理念と共有</p>					
1	1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人の理念、使命の1つに「施設は孤立してはいけません。家族、地域との連携を考えましょう。」とあり、地域密着型サービスの役割を反映しているため独自の理念はつくっていない。今までに見直しはしていない。来年度4月に法人が理念を「より個別対応」に即したものにつくり変えるのを機に独自の理念をつくることも検討したいと考えている。</p>		<p>理念は地域密着型サービスとして何が大切かをグループホーム自体が考え、地域や入居者のニーズ、状況に即したのものにつくり変えていく必要があります。法人がつくり変えるのを機に、職員とも話し合い現状にあった独自の理念をつくられることを期待したい。</p>
2	2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念はスタッフルームに掲示し、職員へも配布している。毎朝職員は出勤時に声に出している。管理者はミーティングやカンファレンスの際、理念に沿ったケアについて「個々に状態は様々なので特性をつかみ尊敬の念を持って支援を」と話している。職員は分からないことがあれば管理者に聞き、必要に応じて資料にて学んでいる。</p>		
<p style="text-align: center;">2. 地域との支えあい</p>					
3	5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>町内会に加入し、年に数回毎月の「八田だより」を作り変えて回覧している。日々ゴミ捨てや散歩で交流を図り、敬老会や草むしりなどに参加している。中学生の体験学習や大学生、各種ボランティアの受け入れもしている。近所の方が犬を連れホームへ立ち寄りたり、また、季節の行事に野菜や花を届けて下さる方もある。地域包括支援センターとの協力で3月には介護予防教室の講師として認知症の話しをすることになっている。</p>		
<p style="text-align: center;">3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者はセルフチェック表の延長線上に評価を捉え、職員に意義を説明し、全職員で自己評価に取り組んだ。項目数が多く、時間がかかったが管理者は職員の捉え方を知ることができ、職員は日常業務のあるべき姿が分かり勉強になった。前回評価結果をより良いサービス提供に活かしており、特に介護計画は個別ケアに沿ったプランの充実に努め、質の確保につなげている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、2カ月毎に施設長、ハウスマネージャー、職員、家族、市役所担当者、地域包括支援センターが参加し開催している。町内会長、民生委員にも声かけしているが今のところ参加はない。ホームの運営状況、入居者の様子の説明、勉強会を行い、意見交換の場、家族交流の場として役立っている。市の職員の参加で制度面などの質疑応答もされている。議事録は欠席の職員にも提示し情報を共有している。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の介護保険課へは入居者と一緒に相談に行くこともある。何か分からないことがあれば、担当者を決めて相談に行き、市の担当者はいつでも親身になって相談にのってくださるのでとても助かっている。「子ども110番」の手続きもアドバイスを受け申請できた。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月発行の「八田だより」に個々の状態、様子を記入し郵送または来訪の際に渡している。写真が豊富でホームでの暮らしぶりがよく分かる。昨年秋より入居者一人ひとりに「交換ノート」を作り、日々の状態を記録し来訪時には家族にも会話の内容や様子を記入してもらい、日々のケアに活かしている。買い物や喫茶店など外出の際、一人ひとりの希望や力に応じてお金の所持や支払いの支援をしている。用途については家族に明細を明示しサインをもらっている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>昨年12月に第1回家族会（忘年会）を開催した。バイキング形式の食事やミニ掛け軸作り、ゲームやホームよりの話しをした。家族は困ったこと、悩んでいることなどの交流の場となり家族間でとても盛り上がった。今後は季節毎に開催しホーム側も家族とゆっくり話しをしたいと考えている。意見箱を設置しているが、今までに苦情はない。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職は体調の変化や本人の強い希望によるもので、入居者へのダメージを防ぐため最小限に抑えている。職員の異動は家族には伝え、入居者へは伝えないが、不安を感じないように配慮しスムーズに移行できている。法人が大規模なので法人内異動もあるが、介護福祉士の資格をもった職員を配置するようにしている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時には1カ月以内に研修を実施し、その後は法人内で各種の研修制度が充実している。スーパースターシートを活用し、各自年間目標を立て、自己目標シートに沿って研修などを受け、3カ月毎に見直し目標達成に向けている。管理者は職員の育成に向け段階に応じての研修を支援し、外部研修は希望に応じている。研修内容の報告日を設け、職員への共有に努めている。救急救命の講習へは順番に参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県グループホーム連絡協議会や市内の居宅介護支援事業者連絡会に加入している。研修会には職員も参加、情報交換や交流を通じてサービスの質の向上に努めている。法人の他のホームでボランティア活動の体験をし、今後の活動の参考にしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	桃山町に法人内申し込みセンターがある。判定会議後居室の空きが出ると本人同伴でホームに来てもらい面接を行なう。雰囲気を感じてもらい、相性なども勘案し、職員の意見も聞いて判断する。体験入居はないが、個性に配慮しながら対応し、馴染みの関係づくりに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であり、尊敬の念を忘れないように心がけている。食事づくりでは煮くずれしない食材の切り方といった「おばあちゃんの知恵袋」的なことを教えてもらったり、浴衣のたたみ方など得意分野での知識も取り入れている。日常の家事は入居者同士で得意なこと、不得意なことを上手く分担し、助け合いながらスムーズに行なわれている。職員は入居者から、時には労いの言葉をかけてもらい励まされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は入居者の「つぶやき」を汲み取り本人の立場で考えるよう努めている。交換ノートで現在の本人の意向を確認し、適応できるものを探し職員全員で統一した介護にも努めている。地図の利用で故郷の話しをしたり、春日井の地図で名所巡りすごろくを作り外出への励みとなっている。思いの把握が難しい時はいろいろ試し、観察して癖を掴んだり、言葉の端々から気持ちを読み取っている。「早い段階で特徴を見極めておくとその後の支援に役立つ。」と管理者は話された。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は本人、家族の希望、意見を聞き、具体的に作成されている。作成担当者は問題解決の視点だけではなく、本人の趣味、好きなこと、伸ばしたいこと、楽しいことを大切に考え計画に盛り込んでいる。職員は日々の生活の中できめ細かく本人の状況を把握しており本人、家族、職員の意見、アイデアが活かされた計画となっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>短期の目標を1カ月、長期の目標を6カ月間とし、毎月見直しを行なっている。カンファレンスには家族の参加も呼びかけ、職員が活発に意見を出し合っている。欠席した職員の意見も文書で聞いている。入院や状態変化があった場合は本人、家族、関係者と話し合って迅速に見直しを行なっている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院の付き添い、送迎は基本的には家族が行なうが、本人、家族の状況に応じて柔軟に対応している。入院された場合は、職員がほぼ毎日面会に行ったり理学療法士と話し合うなど、早期退院、ホームでの生活復帰に向けた支援をしている。特別な外出で介護予防教室の折り紙やお手玉への参加もしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月内科の協力医の往診があるほか認知症専門医の往診があり、職員が指導を受けたり相談している。眼科、皮膚科は家族の協力を得て今までのかかりつけ医を受診している。家族の付き添いの際には口頭で報告、情報交換をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	平成11年開設で設備が終末期を想定していないこともあり、ホームとしては終末期ケアは行わない方針だが、重度化した場合には同法人の施設と連携のもと対応していく体制がある。入居時に家族と話し合いホームの方針を説明し、同じ法人の特別養護老人ホームに申し込みをしてもらっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一人ひとりが個人情報の扱いには細心の注意を払っている。介護記録はパソコンに入力しデータは母体施設で管理されている。誇りや自尊心を傷つけることのないよう態度や言葉遣いに気をつけ、入浴の際にも羞恥心に配慮して介助している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大きな流れはあるが、一人ひとりがその日によって自分のペースで過ごしている。近くに住む友人が訪れ居室でのんびり過ごしたり、一人で編み物をしたり手紙を書いたり、夜は好きなテレビをゆっくり見たりと思い思いに過ごしている。居間で皆でゲームを楽しむこともある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けは、入居者ができることや得意なことを手伝いながら職員と一緒にこなしている。大根を持ちやすい大きさに切ってからおろしてもらったり、調理に参加しやすい工夫をしている。職員も一緒に会話を楽しみながら食事をしている。オムレツにソースで一人ひとりの名前を書いて喜ばれたこともあった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日午後の時間帯に行っている。順番など決まっておらず、その日の気分で気の合った人と2人で入浴を楽しむこともある。入浴を拒まれる人には浴室に続く廊下の壁に貼ってあるやさしい日本史年表や諺などで興味を引き出したり、話しをしながらさりげなく誘導している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個別ケアに取り組み、本人の希望や能力を活かして張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。地域の太極拳の教室に参加したり、月2回花を届けてもらい生け花をしたり、テーブル卓球を楽しんでいる。書道の得意な方は作品展に出品し励みになっている。季節により花壇の手入れもする。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やゴミ出し、玄関前で登校する小学生を見送るなどしている。体の弱い方も助け合って散歩に出かけている。毎月遠くの喫茶店へのモーニングや外出ドライブを楽しんでいる。近くの喫茶店ではホ・ムを理解して下さり、馴染みになっている。買い物や外食にも出かける。年に1度法人施設と合同で全員参加の1泊旅行を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外の施錠はしていない。職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しており、かけないことが当たり前となっている。外へ出かける人には職員が見守りながらそっと後ろから付いて行き、声かけをしている。近隣の方の理解があり、見守りや声かけをしてもらえる関係ができている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月に1回ホーム内で入居者と一緒に季節に応じた避難訓練を行っている。消防署に火災の場合について相談し、避難経路のアドバイスを受けた。非常用の飲料、食料、毛布、懐中電灯などを備えている。日ごろから地域の協力を得られる関係を築いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の栄養士が立てた献立をもとに、栄養士のアドバイスを受けながら、季節の食材や入居者の好物を取り入れている。入居者のその日の状態でおかゆにしたり糖尿病の人には盛り付けの工夫で分量を加減している。塩分の調整をする人もある。食事量、水分摂取量はパソコンにも入力し細かく把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は居間はやわらかい白色系、食卓の上は暖色系となっている。壁には季節から入居者や職員の顔写真付きのお雛様や入居者の作品がほどよく飾られている。畳敷きのコーナーに続いて、こたつのテーブルやソファがあり入居者がくつろげる場所となっている。廊下の奥には三角飾り棚があり各々自由に使っている。テレビの音量や職員の話し声など耳ざわりにならないよう気をつけ、換気にも注意している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は好みの家具が持ち込まれ、壁には名前入りの家族の写真やひ孫の写真、好きな動物の写真が飾られたり、人形や小物が置かれていて、その人らしさが現れた個性的な雰囲気になっている。畳敷きにも応じ、ソファやテレビ、ラジオ、小さな机を持ち込んだり、出窓に花や鉢物を飾って心地よく過ごせるようにしている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。